教科名	芸　　術	単位数	2	担当	水上夕規子
科目名	音　楽　Ⅰ	学年・学級	1年次		
科目の目　標	音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。				
教科書 副教材等	「改訂版　ＯＮ！１」（音楽の友社） 「Ｔｈｅ　Ｂａｓｉｃｓ　ｏｆ　Ｍｕｓｉｃ」（教育芸術社）				

1　学習の目標

（1）　音楽を愛好し、音や音楽に対する興味関心を高める。
（2）　音楽のよさや美しさを感じ取り、創造的な音楽表現能力を育てる。
（3）　音楽や音楽文化に対する理解を深め、鑑賞力を伸ばす。

2　学習内容と進め方

（1）　歌　唱
　自分の声を活かしたよく響く発声方法を工夫し、芸術歌曲の独唱・アンサンブル・合唱曲に取り組む。
（2）　器　楽
　クラシック・ギター実習を行う。基礎的な奏法を学び、簡単な独奏曲やギター・アンサンブルを学習する。
（3）鑑　賞
　西洋音楽史についての理解を深め、様々な楽曲の鑑賞をしながら、文化的・歴史的背景や作曲者及び演奏者による表現の特徴と美しさとの関わりを学習する。
（4）楽　典
　表現や鑑賞に活用する基本的な音楽理論を学習する。

3　学習の留意点

（1）実技では、基礎的な訓練を正しく行うことで上達します。授業をよく聞いて毎時間しっかりと取り組むこと。
（2）鑑賞では、好き嫌いをにとどまらず、興味を持って聴こうという姿勢で臨むこと。
（3）「鑑賞の記録」の書き方
　①「曲名　〔時代区分〕」「作曲者名」「演奏形態、演奏者」を記入する。
　②下の空欄には、説明内容や教科書に載っているポイントを記入すること。
　③また、わかったことや気づいたこと・のちに自主的に調べたこと・感想を記入すること。

4　評価の方法

主に次のような評価項目で総合的に評価します。（◎…大いに参考にする、○…参考にする）

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力	備　考
歌　唱	○	◎	◎		
器　楽		◎	◎	○	
鑑　賞	○		○	◎	
楽　典	○	○			

5　自己評価

4　しっかりと理解できた　3　おおむね理解できた　2　あまり理解できていない　1　ほとんど理解できていない

第１回定期考査　　自己評価　４　３　２　１
　評価の理由と学んだこと（　　）
第２回定期考査　　自己評価　４　３　２　１
　評価の理由と学んだこと（　　）
第３回定期考査　　自己評価　４　３　２　１
　評価の理由と学んだこと（　　）
第４回定期考査　　自己評価　４　３　２　１
　評価の理由と学んだこと（　　）

《自由記述》この科目において、あなたは何を学びましたか。また、一番印象に残っていることは何ですか。

※教科書に挟んでおき、授業でいつでも確認できるように

6　授業計画

月	領　域	単元・考査等	時間	学　習　内　容	評価の観点（基準）
4	導　入	授業ガイダンス 発声法の基礎 「手稲高校校歌」	5	授業の内容・進め方・到達点・参加の仕方等の理解 発声法の重点（姿勢・腹式呼吸・共鳴）についての基本練習 校歌の歌詞・楽譜の理解をしながら、１番から３番までの練習	１.【音楽への関心・意欲・態度】 音楽やその文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとしているか。
5 ～ 9	読　譜 表　現 鑑　賞	「ソルフェージュ」 「音楽理論①」 ～音名/音程/ｺｰﾄﾞﾈｰﾑ 「合唱①」 「歌唱実技①」 ・日本の歌 「二重唱」 「ギター実技①」 ・奏法の基礎 ・タブ譜の読み方 ・簡単な独奏曲 ・二重奏曲 「西洋音楽史と鑑賞①」 ～中世・ルネサンスの音楽 ～バロックの音楽 ～古典派の音楽 楽器の発達	25	正しい音程・リズム・テンポでのソルフェージュ（視唱）練習 （毎時間継続しての積み重ね） 楽譜読みに必要不可欠である音楽用語、約束事項についての理解、聴音 声楽の基本ベルカント唱法の練習 詩や曲の持つ音楽的な特性、背景や内容、表現方法についての理解と工夫 馴染みのある合唱曲に取り組む ギターの構造・奏法の理解 右手左手の動きを把握し、基本的な弾き方を習得する 西洋音楽における歴史の流れ・変遷の理解 各時代における音楽的な特徴についての理解と、その代表的・典型的な作品の鑑賞 鑑賞レポートの作成	２.【音楽表現の創意工夫】 音楽を形づくっている要素の知り、意図を持った表現の工夫ができたか。 ３.【音楽表現の技能】 音楽表現をするための技能を身につけたか。 ４.【鑑賞の能力】 音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わえるか。 ※以上を総合して、絶対評価を基本とした総合評価を行うものとする。
	評　価	「実技テスト①」 「楽典テスト①」 「ノート提出①」	5	発表形式による独唱独奏演奏 発表形式によるグループ演奏 音楽理論の理解度の確認テスト 鑑賞ノート提出による内容評価	
10 ～ 12	読　譜 表　現 鑑　賞	「ソルフェージュ」 「音楽理論②」 ～音階/調性 「歌唱実技②」 ～芸術歌曲 ・Caro mio ben ・Heidenröslein 他 「合唱②」 「ギター実技②」 ・ギター独奏曲 ・ギター・ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙ 「西洋音楽史と鑑賞②」 ～ロマン派の音楽 ～近・現代の音楽 ～日本の伝統音楽	15	正しい音程・リズム・テンポでのソルフェージュ（視唱）練習 （毎時間継続しての積み重ね） 楽譜読みに必要不可欠である音楽用語、約束事項についての理解 芸術作品の独唱演奏 詩や曲の持つ音楽的な理解と工夫 イタリア、ドイツの原語による曲の完成 混声四部合唱に取り組む 基本奏法を理解した上での独奏曲演奏 グループ発表に向けての曲練習 西洋音楽における歴史の流れ・変遷の理解 各時代における音楽的な特徴について理解と、その代表的・典型的な作品の鑑賞 日本の伝統音楽についての知識・理解と代表作品の鑑賞	１.【音楽への関心・意欲・態度】 音楽やその文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとしているか。 ２.【音楽表現の創意工夫】 音楽を形づくっている要素の知り、意図を持った表現の工夫ができたか。 ３.【音楽表現の技能】 音楽表現をするための技能を身につけたか。 ４.【鑑賞の能力】 音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わえるか。 ※以上を総合して、絶対評価を基本とした総合評価を行うものとする。
	評　価	「実技テスト②」 「楽典テスト②」 「ノート提出②」	5	発表形式による独唱独奏演奏 発表形式によるグループ演奏音楽理論の理解度の確認テスト 鑑賞レポート提出による内容評価	
1 ～ 3	表　現	「歌唱実技③」 ～ヴォーカル・ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙ	12	グループ学習 表現方法についての理解と工夫 パート・重唱形態における練習方法の工夫と追求 パートから全体、全体から重唱へ移行 純正調の響きの完成	
	評　価	「実技テスト③」	3	ヴォーカル・アンサンブルのグループ発表 各グループごとの演奏への評価 表現の工夫と完成度への評価	